

1974年(昭和49年)

### 平和宣言

長崎市は、本日八月九日、被爆二十九回目の運命の日を迎えた。

原爆の惨苦を身をもって体験した長崎市民は、真夏の空に紅く映ゆる夾竹桃の花の色にも、あの日の血の色を感じ、亡き父母を、吾が子を、肉親を思いおこし、核兵器の恐怖と、はげしい怒りにふるえている。

核兵器を廃絶せよ。

核実験を全面禁止せよ。

われわれ四十四万長崎市民は、被爆市民の血の叫びとして全世界に訴え続けてきた。

しかるに、長崎市民の願いは無視され、核実験に対するはげしい世論の高まる中で、相次いで核実験は強行されている。

許しがたい行為である。

核の現実、明らかに平和を求める国際世論に逆行している。

核実験は、最近、ますますその回数を増し、その貯蔵量は増大し、更にまた、われわれの悲願に反し、核開発をめぐる諸国の動きなど、核保有国は拡大の一途をたどり、限りない核の拡散は、今や、世界に新たなる緊張と恐怖を刻々と高めつつある。

核兵器使用は人類自滅への道である。

今こそ核保有国は勿論、全世界の国々が人類の英知を結集、世界平和の理念に立脚し、核兵器の使用、実験、製造、貯蔵の完全なる廃絶のため、いかにあるべきかを行動で示すべき時である。

本日、被爆二十九周年の原爆犠牲者慰霊平和祈念式典を実施するにあたり、心から原爆殉難者のごめい福をお祈りするとともに、謹んで御霊に申し上げる。

長崎市は、最近における度重なる核実験に抗議するため、このたび、核実験抗議団を編成し、核保有国政府に対し長崎市民の悲願を直接行動で訴えた。

われわれ長崎市民は、皆様のご遺志を体し、一致団結、もって被爆者援護の一層の充実を期するとともに、すべての核実験の即時停止と恒久平和の実現のため、挺身することを誓いここにこれを全世界に宣言する。

昭和四十九年八月九日  
長崎市長 諸谷義武